

# 平成28年度

## 「防災・減災に関する県民意識調査」

### 結果の概要

和歌山県

平成 29 年 4 月

#### ●調査目的

本調査は、県民の地震・津波及び風水害等に対する認知度や日頃の防災対策、行政へのニーズ等のデータを収集・分析し、今後の防災・減災対策に反映させることを目的として実施されたものです。

これまで平成 16・19・22・23・25 年度に調査を実施しており、今回が6回目の調査となります。

#### ●調査期間

平成 28 年 12 月 1 日から平成 28 年 12 月 24 日まで

#### ●調査対象

県内在住の満 20 歳以上の住民 4,000 人を、以下の地区別に住民基本台帳から抽出

A 津波危険地区（南海トラフ巨大地震で全域もしくはほとんどが浸水深 1 m 以上と想定される地域）  
から 2,000 人

B 全県地区（津波危険地区以外）から 2,000 人

#### ●調査方法

郵送配布、郵送回収によるアンケート調査

#### ●有効回答率

65.7%（津波危険地区：65.9% 全県地区：65.5%）

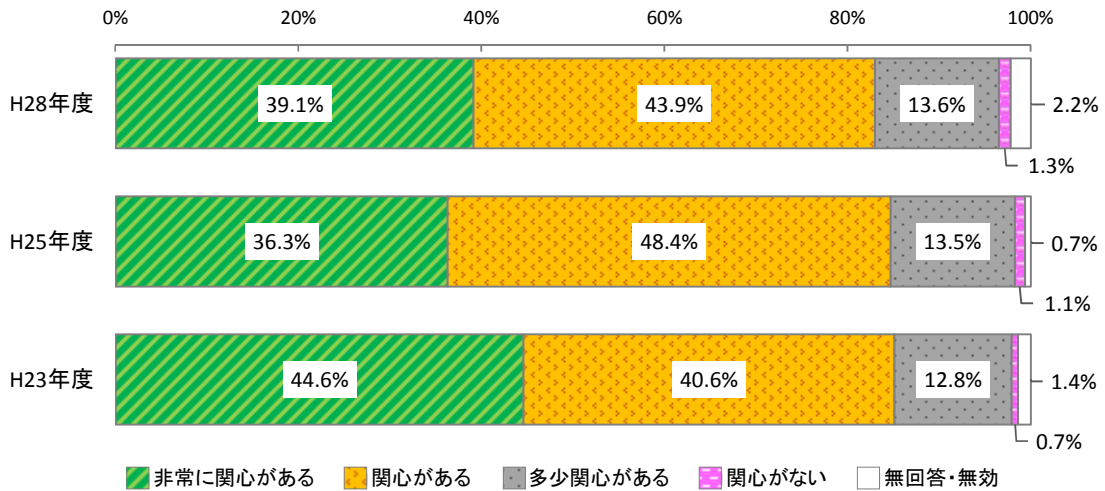
#### ●集計結果数値等の取扱い

- ・アンケートには、単数回答（1 つだけ選択する回答）と複数回答（該当するもの全てを選択する回答）があります。
- ・複数回答の場合は、合計が 100% を超える場合があります。
- ・設問に対して回答がないものや、単数回答の設問で複数選択したものは、「無回答・無効」として取り扱いました。

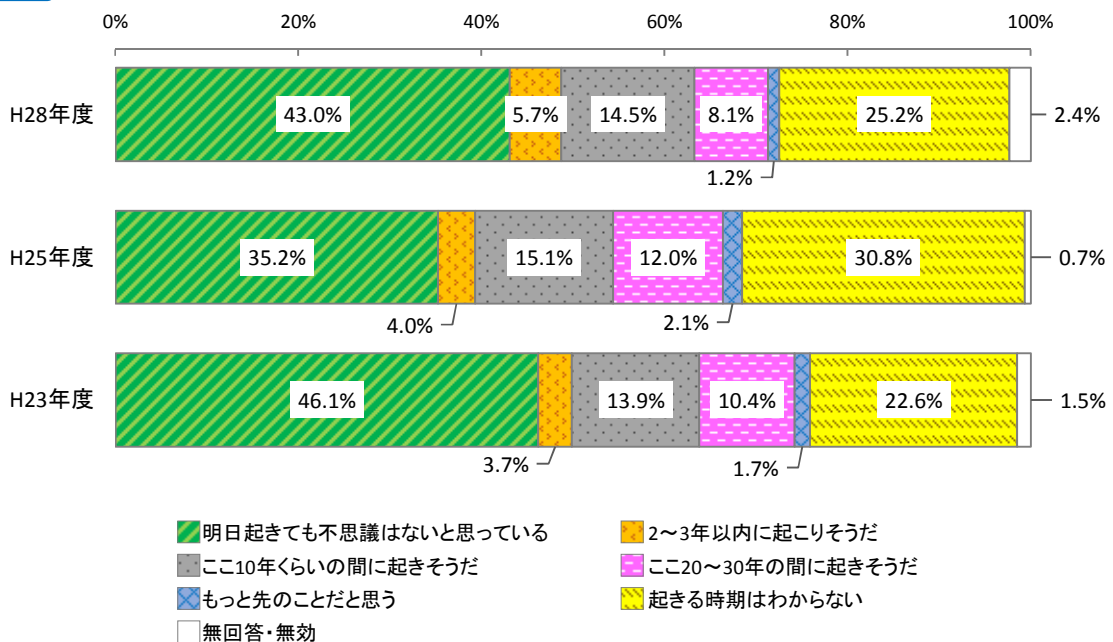
# 南海トラフの地震への関心

※「津波危険地区+全県地区」の結果を掲載

**Q** あなたは、南海トラフの地震（東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震を含む）について、どの程度関心を持っていますか。



**Q** あなたは、南海トラフの地震が起こる可能性について、どのように思っていますか。



96.6%<sup>\*1</sup>の県民が南海トラフの地震に関心があると答えています。

また、63.2%<sup>\*2</sup>の県民が今後10年以内にと考えており、地震に対する危機意識は東日本大震災直後の平成23年度調査（63.7%<sup>\*2</sup>）に次いで高い結果になりました。

\*1) 「非常に関心がある」「関心がある」「多少関心がある」を合算した値

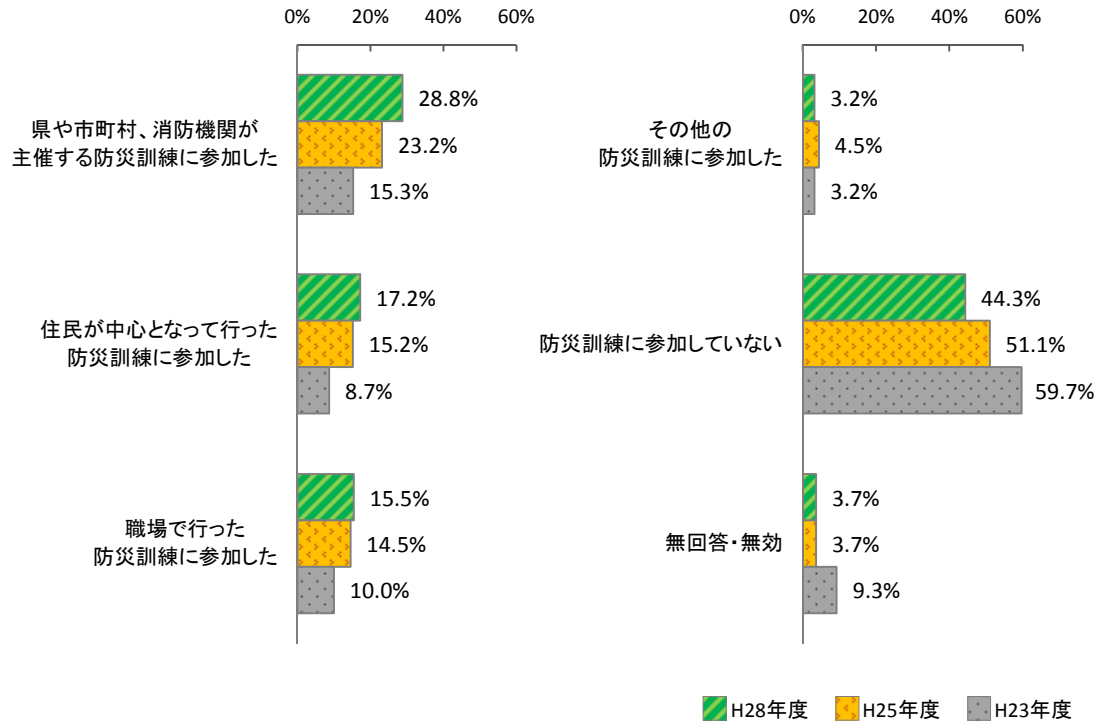
\*2) 「明日起きてても不思議はないと思っている」「2～3年以内に起こりそう」「ここ10年くらいの間に起きそう」を合算した値

# 防災訓練への参加

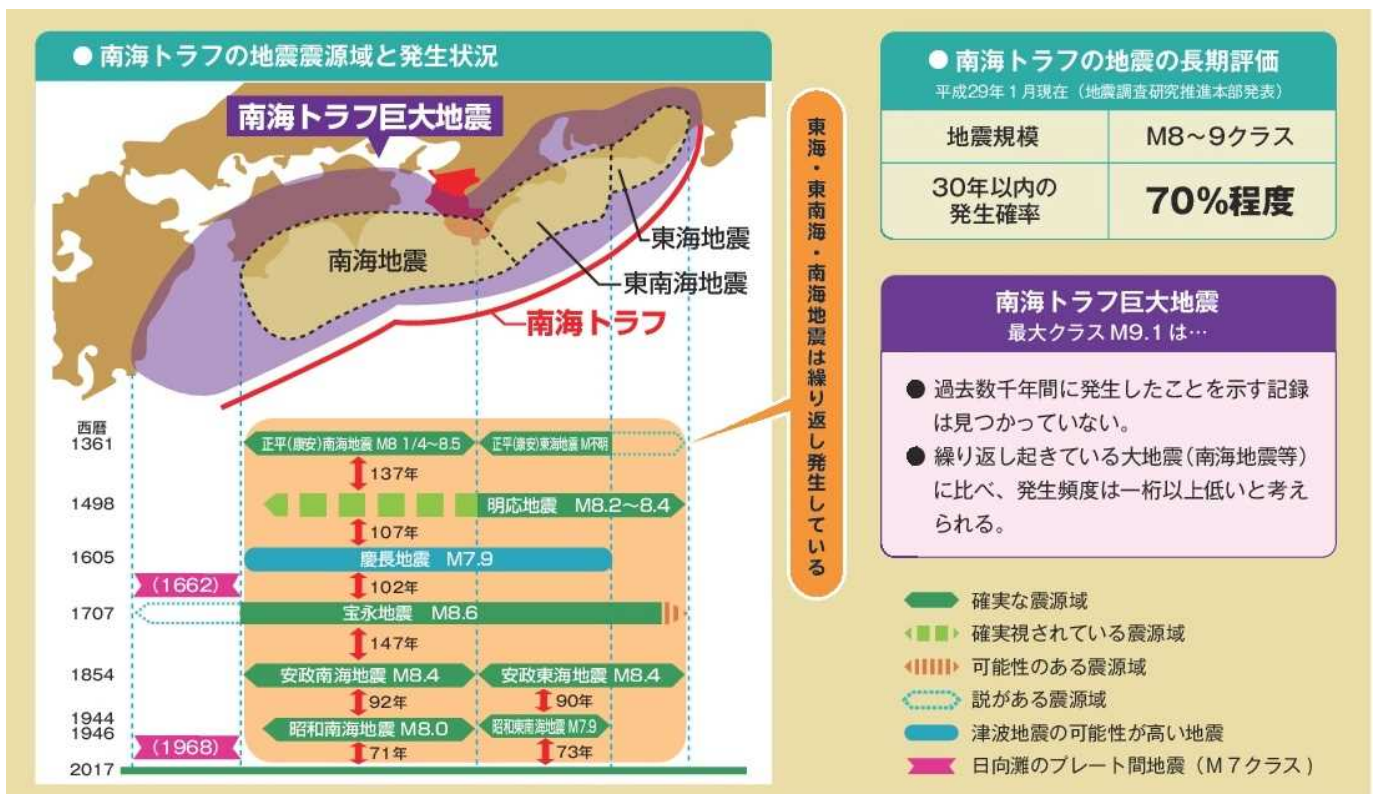
※「津波危険地区＋全県地区」の結果を掲載

Q

あなたは、過去1年間に地域や職場、県や市町村などが実施する防災訓練に参加したことがありますか。

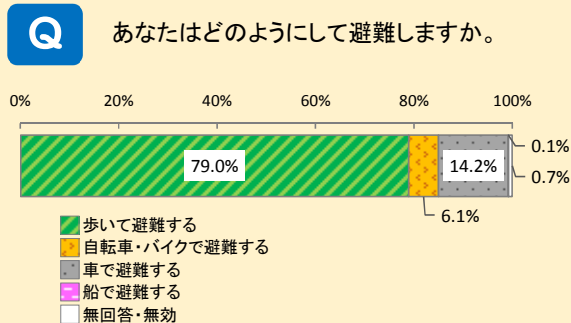
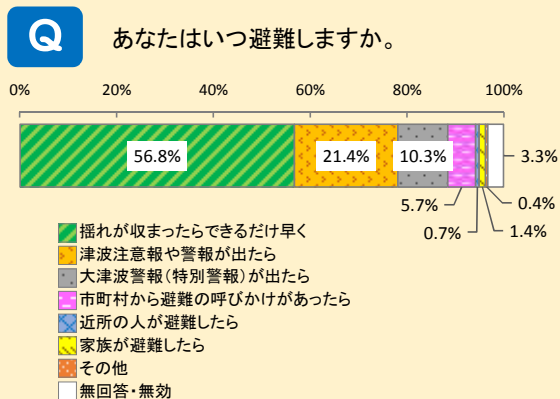
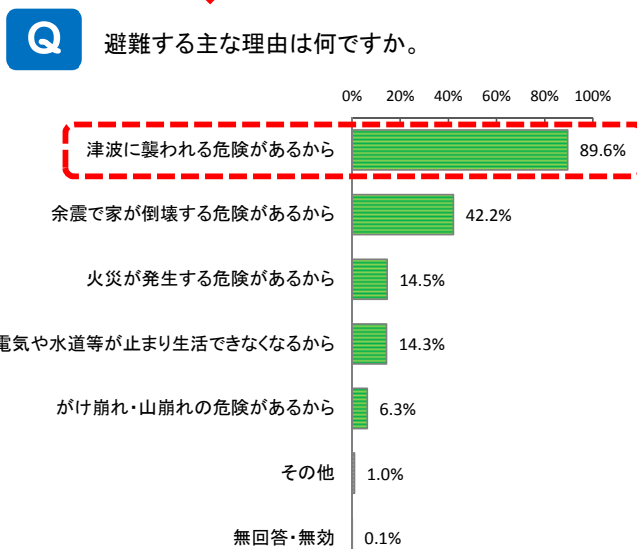
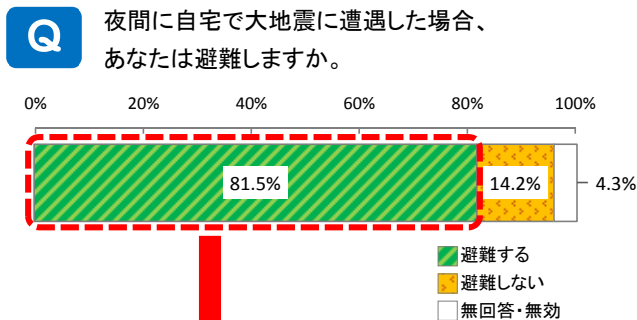


過去1年間の防災訓練において、「防災訓練に参加していない」と答えた人は 44.3%であり、調査開始以降初めて過半数を下回り、防災訓練への参加状況は過去最高となっています。



# 津波からの早期避難

※津波危険地区の結果のみ掲載



夜間に自宅で大地震に遭遇したとき、「津波に襲われる危険があるから」避難すると答えた人のうち、56.8%は揺れが収まったらできるだけ早く避難すると答えています。しかし、残り 39.5%は津波警報等の発表や市町村からの呼びかけがあってから、または近所の人や家族が避難してから避難すると回答しており、早期避難の意識はまだ十分ではありません。また、避難手段について 14.2%が車で避難すると答えています。車での避難は渋滞を引き起こします。足腰が弱くなり走ることが困難な高齢者など、本当に車での避難を必要としている人のため、徒歩で避難するようにしましょう。

## 津波について正しい知識を持ちましょう！

- 津波は繰り返してやってくる。第1波が最大とは限らない。  
(第1波が小さくても油断しない、引いても戻らない)
- 津波は引き波から始まるとは限らない。
- 30センチの津波でもまきこまれるおそれがある。
- 弱い地震でも大きな津波を引き起こすことがある。
- ゆったりとした長い揺れが続く場合は、津波を引き起こす海溝型地震の可能性を考え、避難する。  
(東日本大震災では3分以上も揺れが続いた地域もある)

## 津波避難 3原則

- ① 想定にとらわれない
- ② 最善を尽くせ
- ③ 率先避難者になれ

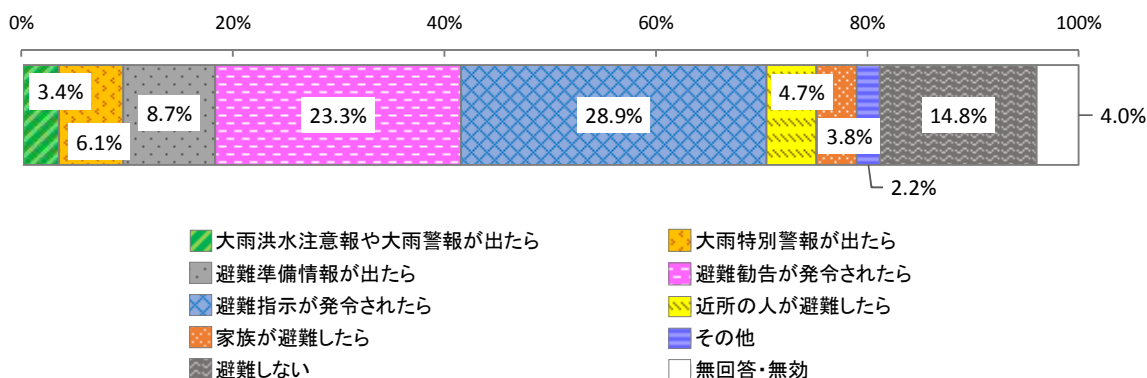


片田敏孝 東京大学大学院情報学環 特任教授 監修

# 風水害への意識と早期避難

※「津波危険地区＋全県地区」の結果を掲載

**Q** 近年、国内では局地的な大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。  
あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。  
あなたは、どの段階で避難しますか。



これまでに経験のない大雨が降り続いたとき、避難勧告発令時点で避難を開始している、または開始すると回答した県民は 35.4%\*3 にとどまりました。風水害時における早期避難の意識は十分に浸透していません。

## ※避難準備情報等の名称変更について※

平成 28 年 12 月 26 日より、「避難準備情報」の名称が「避難準備・高齢者等避難開始」に変更されました。また、「避難指示」についても、「避難指示（緊急）」と表記が変更されました。今一度、それぞれの情報の違いについて、確認しておきましょう。

避難準備・  
高齢者等避難開始

- 避難に時間を要する人（高齢者、障害者、乳幼児等）とその支援者 は避難を開始しましょう。
- その他の人は、避難の準備を整えましょう。

避難勧告

- 速やかに避難場所へ避難をしましょう。
- 外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

避難指示  
(緊急)

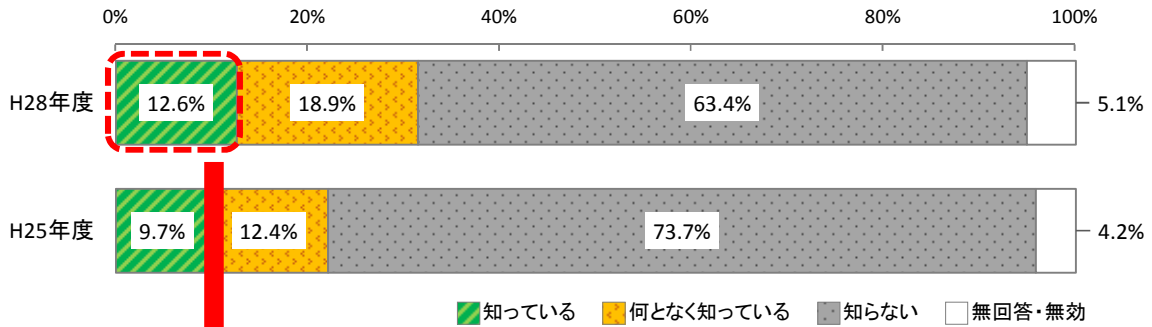
- まだ避難をしていない人は、緊急に避難場所へ避難をしましょう。
- 外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

※これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

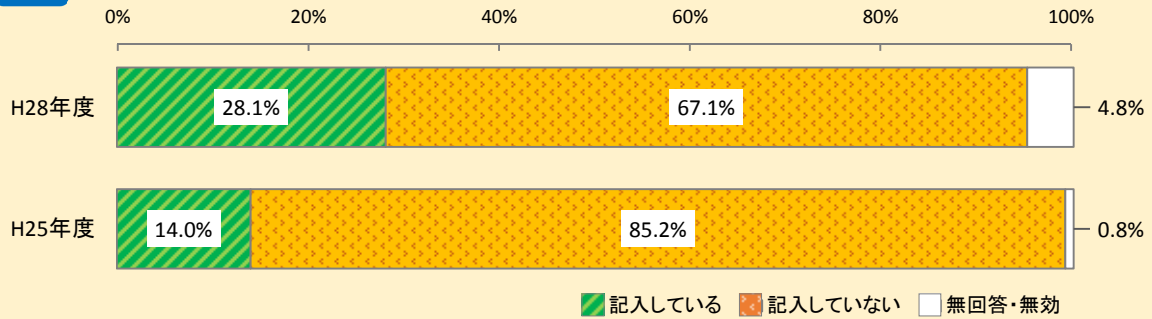
\*3) 「大雨洪水注意報や大雨警報が出たら」「避難準備情報が出たら」「避難勧告が発令されたら」を合算した値

# 災害時の避難

Q あなたは、避難カードを知っていますか。 ※「津波危険地区＋全県地区」の結果を掲載



Q 家族等と避難場所や避難経路等と話し合っ、緊急避難場所等を避難カードに記入していますか。



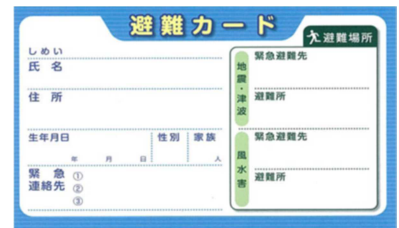
避難カードを知っている人は 31.5%<sup>\*4</sup> となっています。また、知っていると答えた人のうち緊急避難先等を情報カードに記入している人はわずか 28.1% になりました。

地震・津波や風水害が起こったとき、家族と一緒にいるとは限りません。あらかじめ家族で避難場所や避難経路について話し合い、避難カードに記入し常に携帯しておきましょう。

県では、家族と話し合い、災害時に県民一人ひとりが適切な避難行動が取れるよう平成 23 年度に「避難カード」を作成しました。

この避難カードは、常に携帯できるように、財布や保険証のカードケースなどに入るサイズにしています。

避難カードは、県防災企画課、県内市町村窓口などで配布しています。



## 避難場所と避難所の違いについて

災害対策基本法では、「避難場所」と「避難所」は明確に区別されています。

### 避難場所

発災直後に命を守るために、緊急に避難する避難先で、災害種別（地震、津波、水害、土砂災害など）ごとに指定されています。



### 避難所

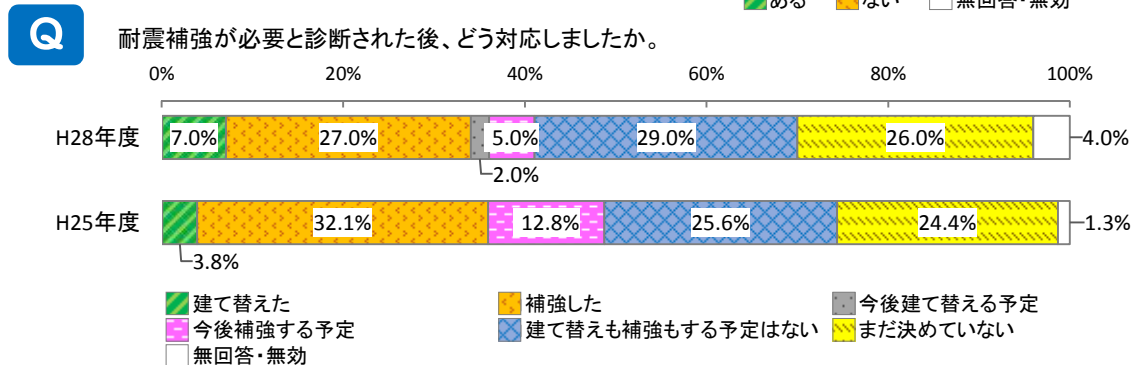
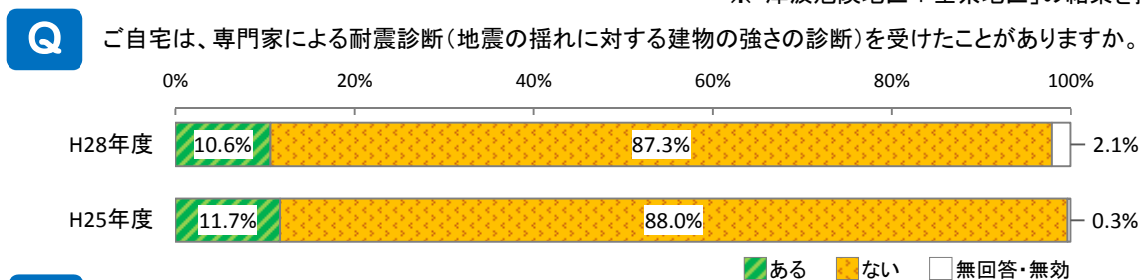
避難場所に避難した後、危険が去った後（警報解除後等）などに、一定期間避難生活をおくる施設です。



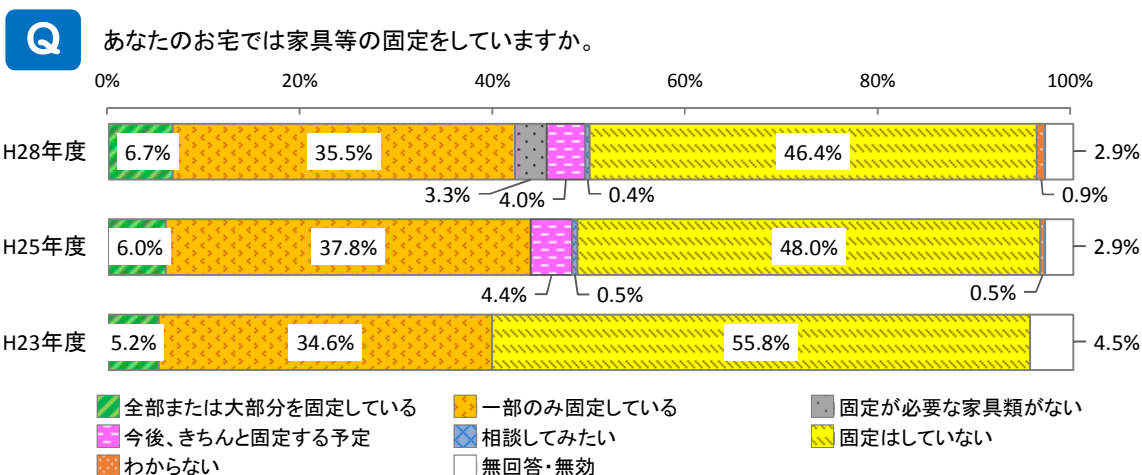
\*4) 「知っている」「何となく知っている」を合算した値

# 自宅等に対する防災対策

※「津波危険地区＋全県地区」の結果を掲載



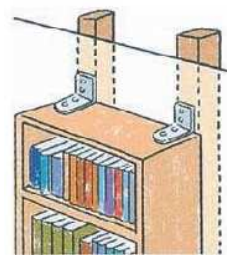
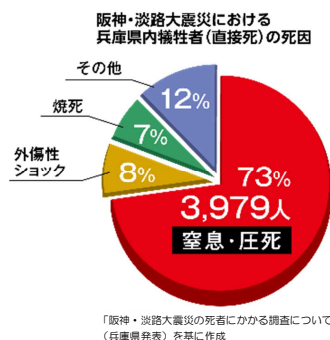
専門家による耐震診断を受けたことがある家庭の割合は 10.6%でした。診断の結果、耐震補強が必要とされても、その後「建て替えた」または「補強した」と回答した人は 34.0%となっており、平成 25 年度の 35.9%とほとんど変わりません。



45.5%\*5 の家庭が家具の固定を実施しており、その割合は平成 25 年度からほぼ横ばいです。家具の固定は最も身近な減災対策であり、正しく取り付ければ大きな減災効果があります。

## 事前の備えで生死が決まる！

熊本地震や阪神・淡路大震災など近年の大地震では、多くの方が住宅の倒壊に加え倒れてきた家具の下敷きになり、尊い命を失ったり、けがを負いました。阪神・淡路大震災では、実に死亡原因の **73%** が住宅の倒壊や家具の転倒などによる「窒息・圧死」です。その多くは、「住宅の耐震化」や「家具転倒防止対策」を行っていれば、助かった命です。



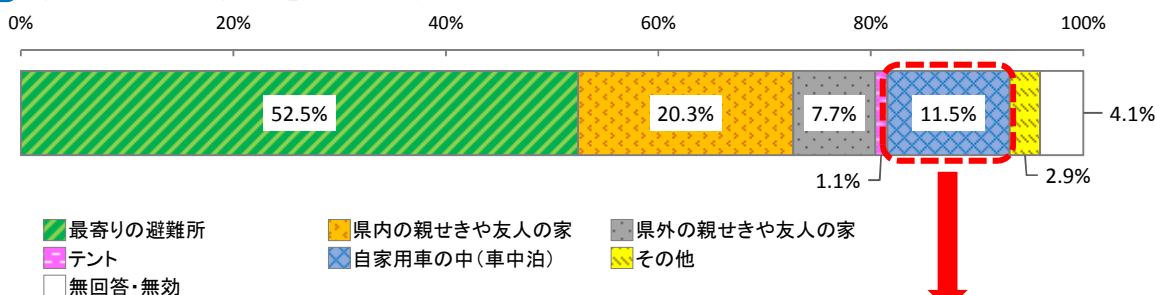
家具は金具を使って、壁などの芯材のある部分にしっかりと固定する

\*5) 「全部または大部分を固定している」「一部のみ固定している」「固定が必要な家具類がない」を合算した値

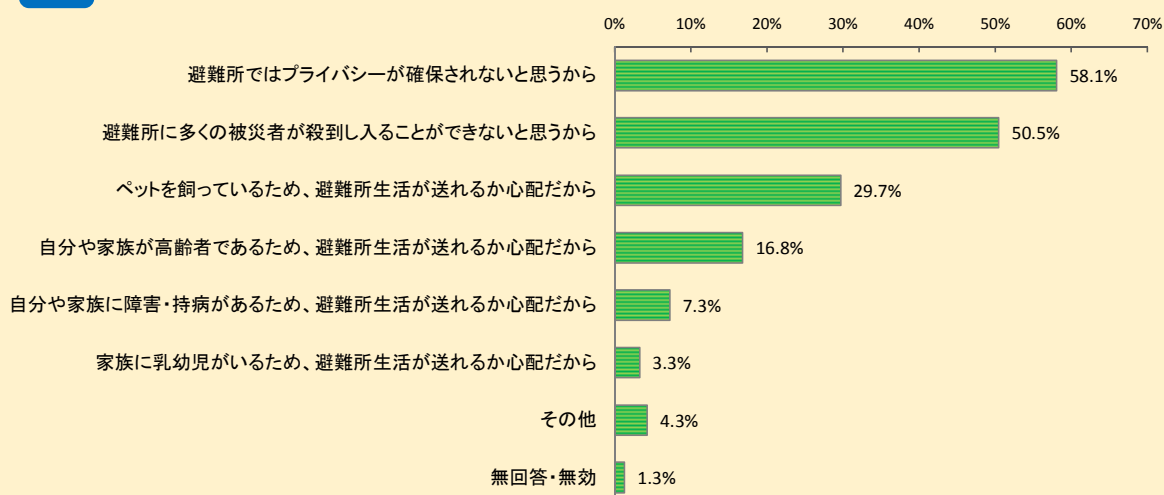
# 避難生活

※「津波危険地区＋全県地区」の結果を掲載

Q あなたの住んでいる地域で大規模な災害が発生し、自宅の損壊等で長期帰宅ができなくなってしまったとします。あなたはどこで避難生活を送りますか。



Q 自家用車の中で避難生活を送る主な理由は何ですか。(複数回答)



避難生活の場所について、「最寄りの避難所」(52.5%)が最も多くなりました。一方、「自家用車の中(車中泊)」と答えた県民は11.5%に及びました。

車中泊を行う理由として、「避難所ではプライバシーが確保されないと思うから」、「避難所に多くの被災者が殺到して入ることができないと思うから」がそれぞれ50%を上回りました。

## まとめ

南海トラフ地震への危機意識は依然として高く、防災訓練への参加状況も過去最高を記録しました。しかし、津波や風水害に対する早期避難の意識はまだ十分ではありません。また、耐震補強や家具の固定といった自宅等に対する防災対策も平成25年度から横ばいになっています。本調査で新たに追加した避難生活に関する項目では、避難生活の場所に自家用車(車中泊)を選択した方が約1割となりました。